



MLD コマンド

この章は、次の項で構成されています。

- [ipv6 mld last-member-query-count](#) (2 ページ)
- [ipv6 mld last-member-query-interval](#) (3 ページ)
- [ipv6 mld query-interval](#) (4 ページ)
- [ipv6 mld query-max-response-time](#) (5 ページ)
- [ipv6 mld robustness](#) (6 ページ)
- [ipv6 mld version](#) (7 ページ)
- [show ipv6 mld interface](#) (8 ページ)

ipv6 mld last-member-query-count

マルチキャストリスナー検出 (MLD) のラストメンバークエリーカウンタを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **ipv6 mld last-member-query-count** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

```
ipv6 mld last-member-query-count count
```

```
no ipv6 mld last-member-query-count
```

パラメータ

count : 脱退を示すメッセージの受信時にグループまたはグループ送信元固有のクエリーを送信した回数。(範囲 : 1 ~ 7)

デフォルト設定

MLD 堅牢性変数の値。

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

MLD ラストメンバークエリーカウンタを変更するには、**ipv6 mld robustness** コマンドを使用します。

例

次の例では、MLD の最後のメンバーのクエリーカウンタの値を 3 に変更します。

```
switchxxxxxxx(config)# interface vlan 1  
ipv6 mld last-member-query-count 3  
exit
```

ipv6 mld last-member-query-interval

マルチキャストリスナー検出 (MLD) のラストメンバークエリー間隔を設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **ipv6 mld last-member-query-interval** コマンドを使用します。デフォルトの MLD クエリー間隔に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

ipv6 mld last-member-query-interval *milliseconds*

no ipv6 mld last-member-query-interval

パラメータ

- *milliseconds* : インターフェイスで MLD グループ固有のホスト クエリー メッセージが送信されたミリ秒単位の間隔。(範囲: 100 ~ 25500)。

デフォルト設定

MLD の最後のメンバーのデフォルトのクエリー間隔は 1000 ミリ秒です。

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

インターフェイスで MLD ラストメンバークエリー間隔を設定するには、**ipv6 mld last-member-query-interval** コマンドを使用します。

例

次に、MLD ラストメンバークエリー間隔を 1500 ミリ秒に増加する例を示します。

```
switchxxxxxx(config)# interface vlan 100
switchxxxxxx(config-if)# ipv6 mld last-member-query-interval 1500
switchxxxxxx(config-if)# exit
```

ipv6 mld query-interval

スイッチがマルチキャストリスナー検出 (MLD) ホストクエリーメッセージを送信する頻度を設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **ipv6 mld query-interval** コマンドを使用します。デフォルトの頻度に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

ipv6 mld query-interval *seconds*

no ipv6 mld query-interval

パラメータ

- **seconds** : スイッチがインターフェイスから MLD クエリーメッセージを送信する頻度 (秒単位)。範囲は 30 ~ 18000 です。

デフォルト設定

デフォルトの MLD クエリー間隔は 125 秒です。

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

インターフェイスから MLD クエリアが MLD ホストクエリーメッセージを送信する頻度を設定するには、**ipv6 mld query-interval** コマンドを使用します。ルータの接続されたネットワーク上にメンバーがいるマルチキャスト グループを検出するために、MLD クエリアはクエリーホストメッセージを送信します。

クエリー間隔は、クエリーの最大応答時間よりも長い必要があります。

例

次に、MLD クエリアが MLD ホストクエリーメッセージを送信する頻度を 180 秒に増加する例を示します。

```
switchxxxxxxx(config)# interface vlan 100
switchxxxxxxx(config-if)# ipv6 mld query-interval 180
switchxxxxxxx(config-if)# exit
```

ipv6 mld query-max-response-time

マルチキャストリスナー検出 (MLD) クエリーでアドバタイズされる最大応答所要時間を設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **ipv6 mld query-max-response-time** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

ipv6 mld query-max-response-time *seconds*

no ipv6 mld query-max-response-time

パラメータ

- *seconds* : MLD クエリーでアドバタイズされる最大応答時間 (秒単位)。(範囲 : 5 ~ 20)

デフォルト設定

10 秒。

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

このコマンドは、応答側が MLD クエリーメッセージに応答できる期間を制御します。この期間を過ぎると、ルータはグループを削除します。

このコマンドは、ルータがグループを削除する前に、どれくらいの時間でホストが MLD クエリーメッセージに応答する必要があるかを制御します。10 秒未満の値を設定すると、ルータはグループをすばやくプルーニングすることができます。

クエリーの最大応答時間はクエリー間隔よりも短い必要があります。

注。ホストが十分な速さで応答しない場合、誤ってプルーニングされる可能性があります。したがって、ホストは10秒 (または設定した値) よりも早く、応答を認識する必要があります。

例

次に、最大応答時間を 8 秒に設定する例を示します。

```
switchxxxxxx(config)# interface vlan 100
switchxxxxxx(config-if)# ipv6 mld query-max-response-time 8
switchxxxxxx(config-if)# exit
```

ipv6 mld robustness

マルチキャストリスナー検出 (MLD) の `robustness` 変数を設定するには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **ipv6 mld robustness** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

ipv6 mld robustness count

no ipv6 mld robustness

パラメータ

- **count** : リンク上で予期されるパケット損失の数。パラメータの範囲。(範囲 : 1 ~ 7)。

デフォルト設定

デフォルト値は 2 です。

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーションモード

使用上のガイドライン

MLD の `robustness` 変数を変更するには、**ipv6 mld robustness** コマンドを使用します。

例

次の例では、MLD の堅牢性変数の値を 3 に変更します。

```
switchxxxxxx(config)# interface vlan 1  
switchxxxxxx(config-if)# ipv6 mld robustness 3  
switchxxxxxx(config-if)# exit
```

ipv6 mld version

ルータが使用するマルチキャストリスナー検出プロトコル (MLD) のバージョンを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **ipv6 mld version** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

ipv6 mld version {1 | 2}

no ipv6 mld version

パラメータ

- 1 : MLD バージョン 1。
- 2 : MLD バージョン 2。

デフォルト設定

1

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

MLD のデフォルト バージョンを変更するにはこのコマンドを使用します。

例

次の例では、MLD バージョン 1 を使用するようルータを設定します。

```
switchxxxxxx(config)# interface vlan 100
switchxxxxxx(config-if)# ipv6 mld version 1
switchxxxxxx(config-if)# exit
```

show ipv6 mld interface

インターフェイスのマルチキャスト関連情報を表示するには、ユーザEXECモードで **show ipv6 mld interface** コマンドを使用します。

構文

```
show ipv6 mld interface [interface-id]
```

パラメータ

- **interface-id** : インターフェイス識別子。

コマンドモード

ユーザ EXEC モード

使用上のガイドライン

オプションの *interface-id* 引数を省略した場合、**show ipv6 mld interface** コマンドはすべてのインターフェイスの情報を表示します。

例

次に、イーサネットインターフェイス 2/1/1 に対する **show ipv6 mld interface** コマンドの出力例を示します。

```
switchxxxxxxx# show ipv6 mld interface vlan 100
VLAN 100 is up
Administrative MLD Querier IPv6 address is FE80::260:3EFF:FE86:5649
Operational MLD Querier IPv6 address is FE80::260:3EFF:FE86:5649
Current MLD version is 3
Administrative MLD robustness variable is 2 seconds
Operational MLD robustness variable is 2 seconds
Administrative MLD query interval is 125 seconds
Operational MLD query interval is 125 seconds
Administrative MLD max query response time is 10 seconds
Operational MLD max query response time is 10 seconds
Administrative Last member query response interval is 1000 milliseconds
Operational Last member query response interval is 1000 milliseconds
```


翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。